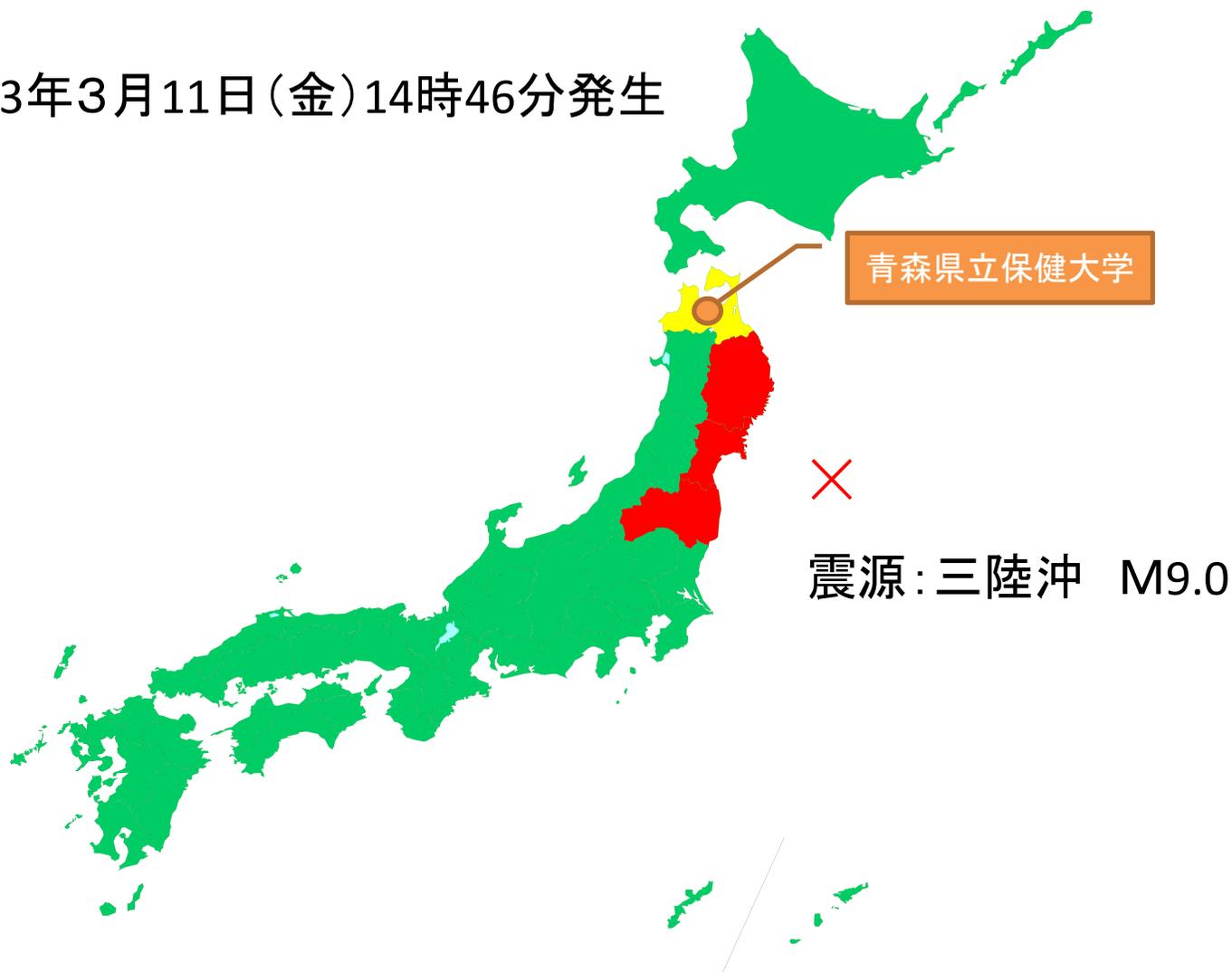


ヒューマンケアの理念をめざす
震災ボランティア活動
—モリー笑顔プロジェクト—

青森県立保健大学
地域連携・国際センター長
中村 由美子

青森県立保健大学と東日本大震災

平成23年3月11日(金)14時46分発生



東日本大震災

全国の人的被害と建物被害(2012/6/6時点) 警視庁調べ

死者:15,861人
行方不明者:3,018人
建物全壊:129,944戸
建物半壊:258,839戸



東日本大震災による青森県の被害

- 死者 3名
- 行方不明者 1名



青森県立保健大学の取組み

2011年3～4月（震災直後）

募金活動

救援物資の搬送

災害支援活動計画への協力



青森県立保健大学の取組み

2011年5～月（準備～活動）

ボランティア養成講座の開催

他団体ボランティア活動への参加



 いわて GINGA-NET



青森県立保健大学の取組み

本学独自の支援活動の準備

青森県立保健大学震災支援に向けた取組み

モーリー 笑顔プロジェクト



公立大学法人

青森県立保健大学

■ 事業目的 ■

- 青森県は震災を受けてはいるが岩手・宮城・福島県と比較して被害が少なく、同じ東北地域である青森だからこそできる活動をめざしていきたい。
- 学生への教育活動の一貫としても地域連携・国際センターが中心となってボランティア活動を推進し、被災した皆様と語り合いながら、ニーズに合わせた活動を行いたいと考えている。

事業① 青森に避難している被災地の子どもとその家族への支援

■ Molley ボランティアセンター（学生ネットワーク）開設 ■

- 概要 避難先（青森市）での支援
連携

青森地域大学間連携協議会、青森市（県外被災者支援室）、青森市社会福祉協議会、教育委員会、PTA 連合会、子育てに関連する NPO 法人、保育連合会など

●子どもの心のケア「笑顔プロジェクト」

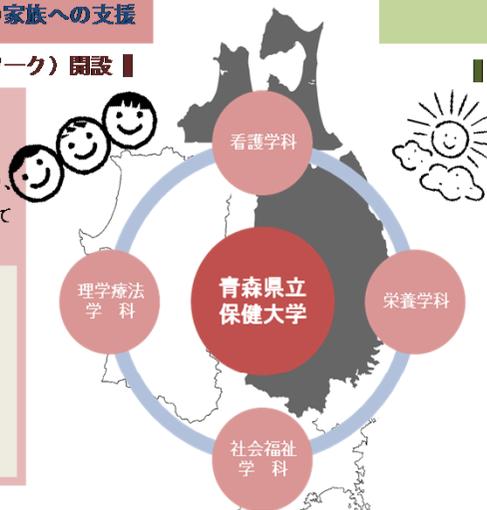
子どもとその家族向けレクレーションの定期的開催

8月：ねぶた祭りへの参加

10月：大学祭へのご招待

学生の企画による交流会の開催

12月：クリスマス会



事業② 岩手県沿岸部（野田村）への支援

■ 現地被災地拠との連携による活動 ■

- 概要 ボランティアネットワークの構築
地域コミュニティ再生への支援
協働

計画的・継続性のある支援
専門的な取組み

●多様化するニーズに対応 健康相談コミュニティ再生

- 看護学科 健康チェックや健康相談
- 理学療法学科 健康維持増進を目指す運動スキル
- 社会福祉学科 地域コミュニティ再生をサポート
- 栄養学科 栄養管理、食の安全

教育・研究への発展

社会貢献

継続的な支援事業の構築

保健医療福祉大学として特色ある支援

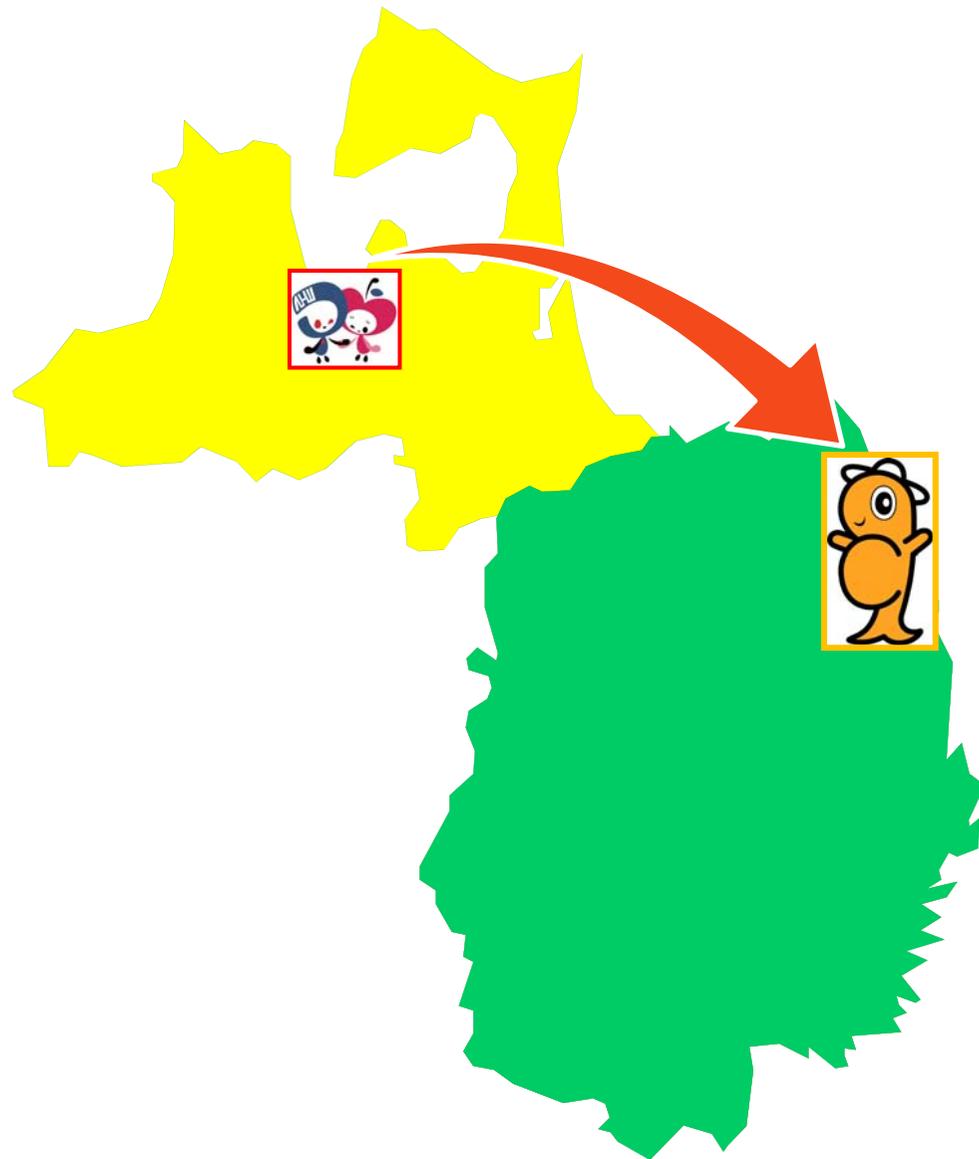
ヒューマンケア

青森県立保健大学地域連携・国際センター

本学における取組みの趣旨

- 復興を支援する。
- 継続的な活動とし、長期的（例；仮設住宅が廃止されるまで）な支援とする。
- 本学の理念、“ヒューマンケア”をベースとする。
- 保健医療福祉の大学（看護学科・理学療法学科・社会福祉学科・栄養学科）の特徴をいかす。
- 学生の学びを考える。
- 被災者のニーズに合った支援を行う。
地元の「CBO」（Community-Based Organization、“地域に根ざした機関”）と普段から「顔の見える関係」を築く

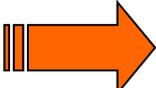
野田村への支援



野田村

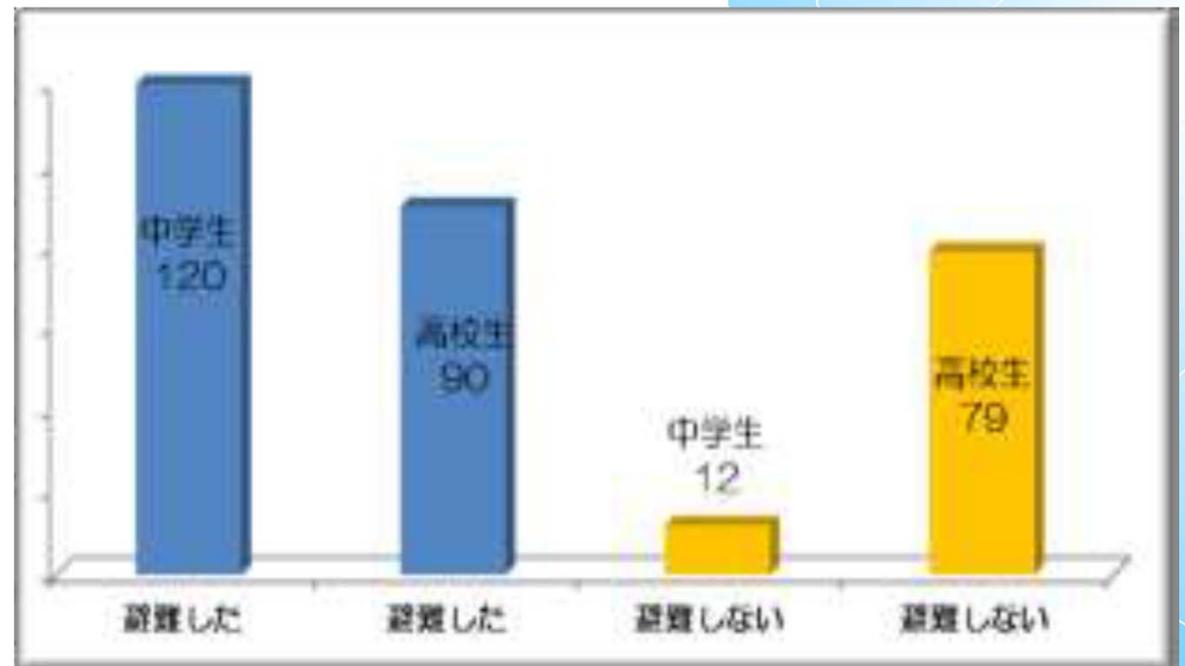
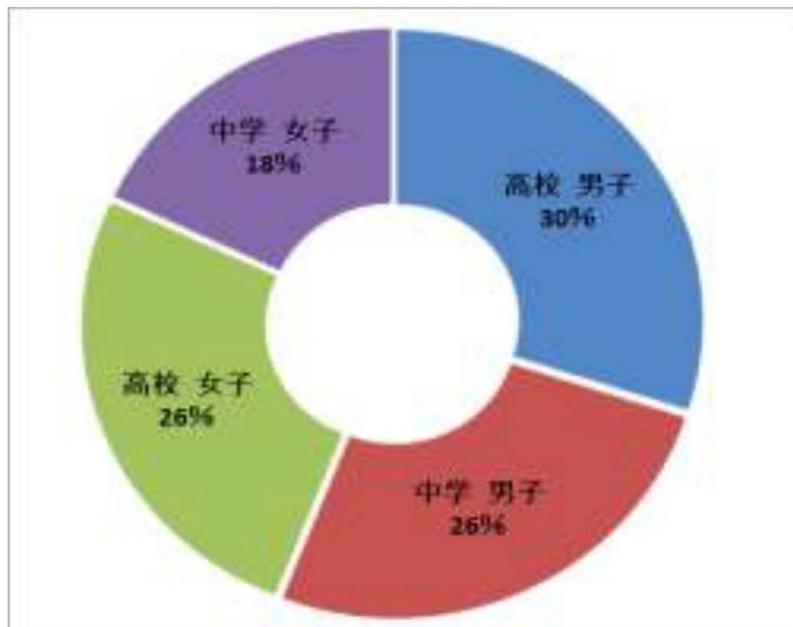


野田村での活動

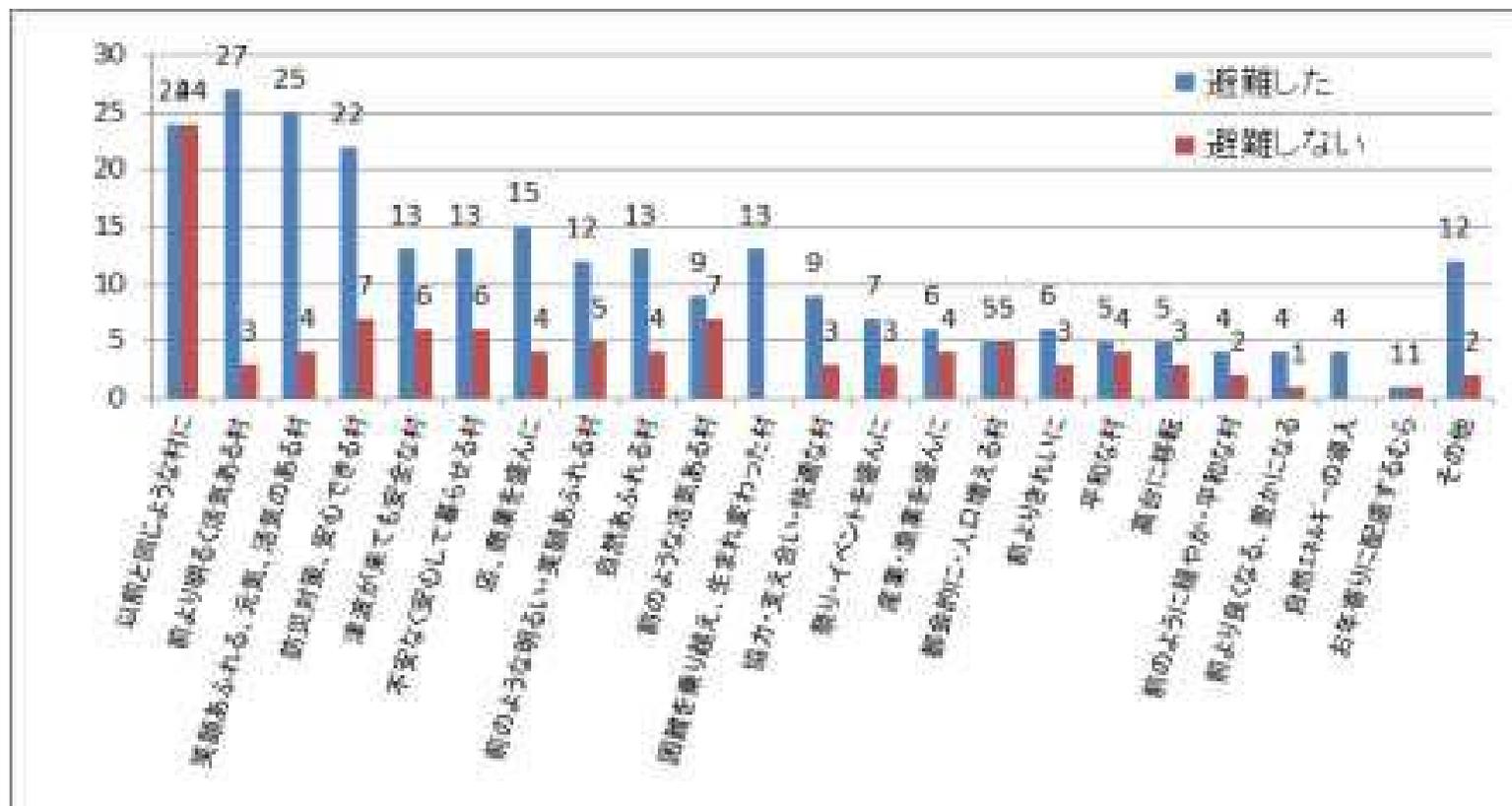
- ①本学のある青森市から最も近く、被害の大きかった地域であり、
 - ②言葉や習慣なども理解しやすい。
 - ③継続的な支援を村が希望していた。
- 2011年8月～ 状況の把握とボランティア活動の準備
 - * 青森市社会福祉協議会からのご紹介
 - * すでにボランティア活動をしている他大学との出会い
 - * 野田村災害ボランティアセンターとの打ち合わせ
 - 2011年10月からボランティア活動を開始
 - 月に1回(仮設住宅がなくなるまで)、仮設住宅の子どもたちや住民への健康相談、茶話会、イベントの企画等
-  共に、復興にむけて
コミュニティ再生を

野田村が実施した“野田村の復興に関する 村民アンケート調査結果” 2011.7

- これからの時代を担う若い世代の意見野田村の**中学生、出身高校生301名**

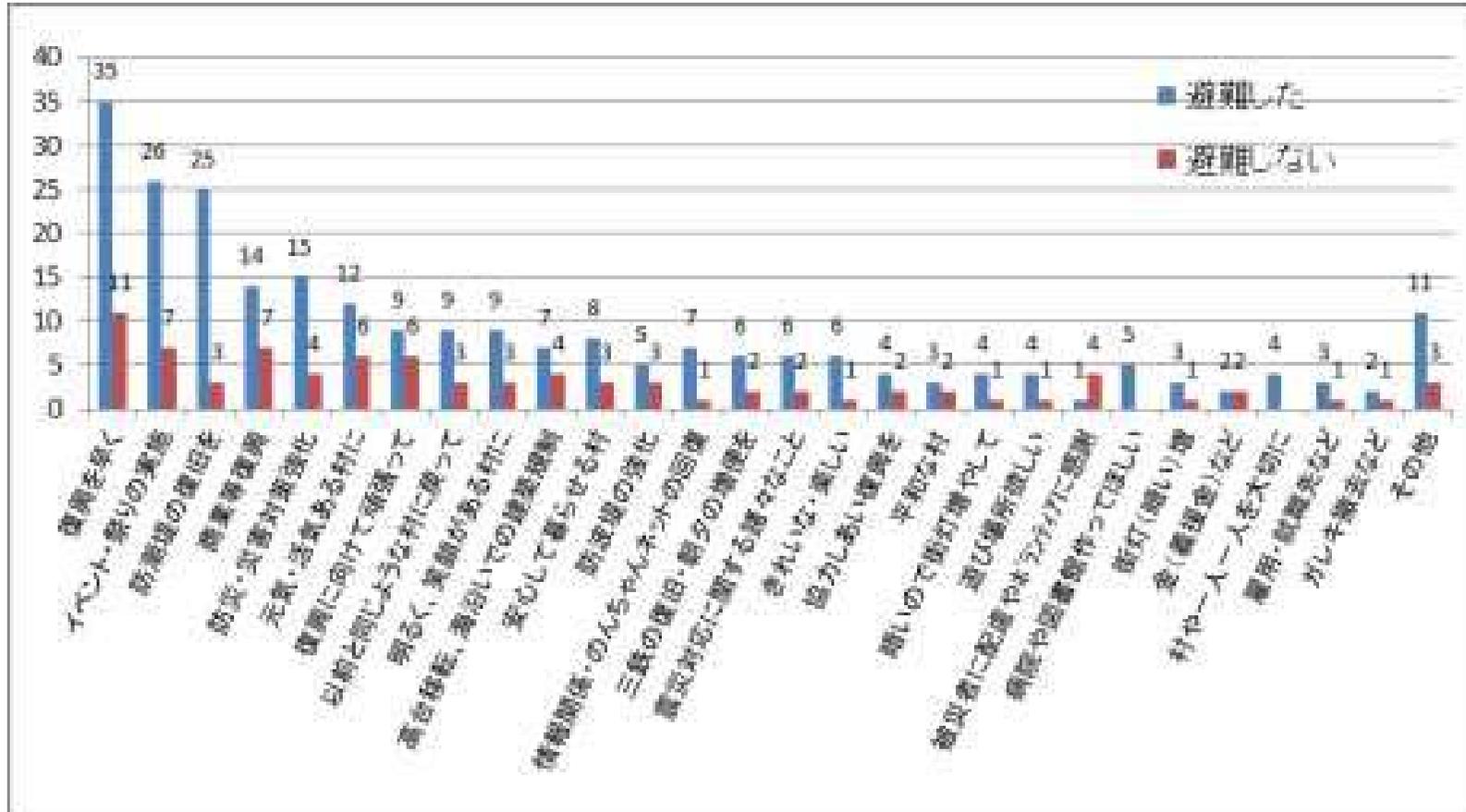


Q将来野田村は、どんな村になればいいと思いますか？



防災対策や「以前と同じような村」を望む意見が一番多く、続いて「前より明るく活気のある村」、「笑顔あふれる、元気・活気がある村」を望む意見が続いています。

Q 村に望むことは何ですか？



復興を望む意見や、「祭り・イベントの実施」に対する意見があります。

活動の一部



料理作りをして
茶話会



温泉ご招待



仮設住宅の集会所を
お借りします

活動の一部



サークル発表



野田村での支援を通じて

1) 健康への支援；

被災者・避難者がまず自分の健康に関心を持ち、元気になることを目標とし、月1回の健康チェックや健康相談を行い、自ら血圧手帳をもって参加するなど健康への関心が高まったものとする。

参加した高齢者からは、「孫のような学生さんに話を聞いてもらうことは、元気になる」「毎月の参加が楽しみ」と毎回6~8名の高齢者がリピーターであり、20名前後が参加している。

2) コミュニティ再生への支援

温泉でのイベントには、野田村5地域の仮設住宅の住民が参加し、住民同士の会話・交流が増えたこと、また、毎月のボランティア活動にクリスマスツリーや桜餅の制作などにより、住民同士の会話が増え、集まるきっかけ作りになったことから、コミュニティ再生支援の一助となった。

青森市の避難者への支援

- 交流の場の確保；

- 8月；ねぶた祭りへの参加

- 10月；大学祭へのご招待

- 11月；やきいも大会

- (NPO法人とのコラボ企画)

- 3月；人形劇「ピノキオ」鑑賞招待

- (NPO法人とのコラボ企画)

- 春休み特別企画として浅虫水族館
での交流

- 家庭訪問；

- NPO法人と協力して、各避難者家庭への訪問によるサポートを実施するための「ホームサポート」の研修への協力

活動の一部



焼き芋大会



水族館にご招待



次への取り組みと課題

この6か月の学生の学びは大きい。

野田村住民との直接的な支援活動により、目標とした本学との信頼関係もでき、今年の夏には子どもたちへの2泊3日の学習サポートも企画されている。

今後は、健康に関連する住民ボランティア活動を支援し、将来的に住民自らが健康を守れるようなプログラムを、本学が住民と協働して作り上げていく予定である